他都道府県の参考事例

琵琶湖・CO_2ネットゼロ対策
特 別 委 員 会　　資 料 3
令和4年（2022年）7月28日
議 会 事 務 局 政 策 調 査 課

1　長期的な視野に立った持続可能な林業・木材産業の強化

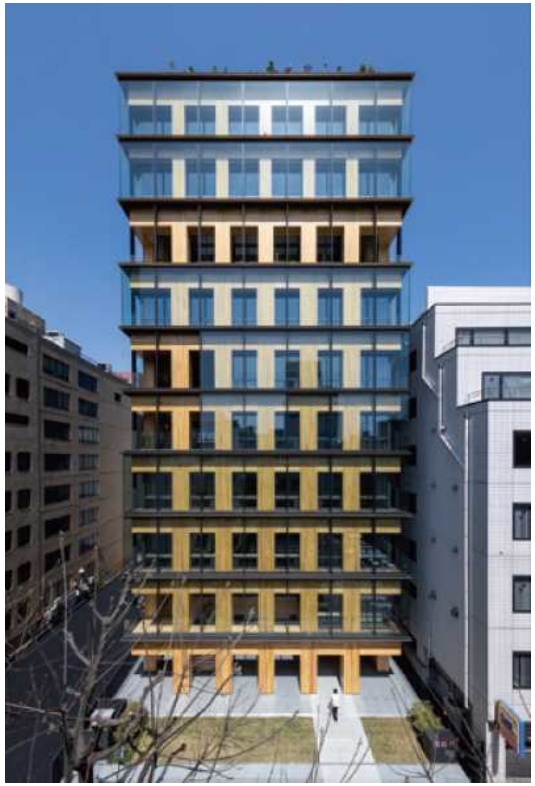
（1）　建築物

低層非住宅建築物

一棟貸し宿泊施設　URASHIMA VILLAGE（香川県三豊市）

JINS 前橋小島田店（群馬県前橋市）

中高層建築物



11階建て研修施設　Port Plus（神奈川県横浜市）

学校施設

松田町立松田小学校（神奈川県松田町）

※　出典：令和３年度森林・林業白書

（2） 安定供給への取組

木質耐火部材

製材を束ねて石膏ボード等で被覆した木質耐火部材

林産複合型経営

秋田プライウッド株式会社による苗木生産

※　出典：令和３年度森林・林業白書

（3） 木質バイオマス

木質バイオマス熱利用

薪ボイラーを利用した温泉施設（鹿児島県肝付町）

木質バイオマスボイラーを利用したミニトマトの生産（三重県松阪市）

改質リグニン製品開発

改質リグニンをウーファーの素材として導入したハイレゾスピーカー（販売品）
（写真提供：オオアサ電子（株））

改質リグニン樹脂を用いた炭素繊維強化
材を使用した自動車用外装材ボンネット（試作品）
（写真提供：（株）宮城化成、国立研究開発法人森林研究・整備機構）

※　出典：令和３年度森林・林業白書

２　森林所有者、林業事業者、山村地域の所得を向上させ、過疎化を喰い止めるための森林資源の総合的利活用

（1）　キャンプ場を核にした森林活用等と一体となった林業経営「ふもとっぱら」（静岡県富士宮市）

○　社有林周辺の農場・施設をオートキャンプ場としてリニューアル。野外フェスの会場として使用することで認知度が向上。

○　利用者への森林・林業への理解を深めるため、林道・作業道でのマウンテンバイク・セグウェイ等のプログラムを行う他、野外フェス等においては、林業機械の展示や講演会・体験会などを実施して、キャンプ場来訪者への森林・林業の普及啓発も実施。

○　間伐材の薪の販売、ジビエ肉加工場整備、所有林の木材を使った宿泊施設等の新設・改修等により、林業経営と一体的に事業運営。

在来工法の「コテージ」
～木の家の体験～

地域材を使った「山荘」
～木の温もりの体験～

草原中央に設置されたトイレ 兼 多目的施設

※　出典：森林サービス産業　マッチング・プラットフォーム「モデル地域・先進事例」

（2） 森を遊びつくす大人旅（広島県）

○ 森の体験や木育プログラムは子ども向けのものがほとんどで、大人が森とその資源が生まれるところから、加工され、自分たちが使用するところまでの流れを学ぶものがほとんどないため、森や山の資源がどのように生産されているのか、その資源をどのように活用していくのかを体験や交流を通して伝え、林業や木材、ジビエなどの産業に対する興味を喚起し、近い将来、中山間地域への移住や転職のきっかけとなることを目的とする。

○ 伐倒見学・3倍力綱引き体験・チェーンソー製材体験・焚火・竹きのこパンづくり・木のスプーンづくり・バームクーヘンづくり・石窯ジビエピザ・地酒・地ワイン・クロモジ茶・木工体験・鹿皮とヒノキの名刺入れづくりが行われた。

グランピング体験

鹿革と木の名刺入れ

ジビエ

※ 出典：林野庁「木育をはじめとする木材利用の普及啓発に関する事例集」

（3） 町立キャンプ場のリニューアルで多様なアクティビティ創出（福井県池田町）

○ 町立キャンプ場をリニューアルし、広大な敷地の中にアスレチックやジップライン等の施設を整備。子どもから大人まですべての世代が好奇心や冒険心を育みながら、森林や自然に触れるきっかけとなる多様なプログラムを構築している。

○ 子どもの発達段階に合わせて繰り返し訪れたくなるプログラムを整備することで、ファミリー層を中心にリピーターが増加。

○ 町の「木望のまちプロジェクト」での様々な施策展開と合わせ、移住者増にもつながっている。

○ 木望のまちプロジェクトについて

「おもちゃハウスこどもと木」
2015年開業の木育施設。池田町産の遊具や木のおもちゃで遊びながら、子どもたちの豊かな感性と想像力を育む場として人気を集めている。

「Wood LABO ikeda」
ものづくりを通して暮らしと木をつなげる木工体験施設。池田の木を使った木工体験や、DIYなど子どもから大人までものづくりを愉しみながら交流できる場となっている。

その他
1歳児に木のおもちゃのプレゼント、新1年生に木の机と椅子のプレゼント等の事業を行っている。

リニューアル後「Tree Picnic Adventure IKEDA」

- センターハウスを建て替え、敷地内の森林を整備し広大なアドベンチャー施設としてリニューアルした。キャビンや樹上テントは開業後に新設した。
- 「木望のまちプロジェクト」のなかで、森の再生と伐採した間伐材の利用による木活施設として、また、子どもたちが森や木々に触れあいながら遊び、学ぶことができる木育施設となっている。
- 岐阜県と池田町を結ぶ冠山トンネルの開通や北陸新幹線の開通を受け、さらなる増設が計画されている。

※ 出典：森林サービス産業 マッチング・プラットフォーム「モデル地域・先進事例」

（4） 未利用森林資源も活用した林業と観光の融合化（群馬県利根沼田地域）

○ 地元の農林産物等が販売される道の駅「川場田園プラザ」は年間190 万人が訪れ、地域振興の拠点となっているが、豪雪地帯であるため道の駅への冬場の農林産物供給が課題となっていた。

○ そこで、これまで利用が進まなかった地域の低質材や広葉樹材を活用した、地域に適したきのこの栽培方法を検討し、オガ粉製造・運搬施設、菌床きのこの生産施設を整備することにより、高品質なきのこを地域で低コストに生産し、「川場田園プラザ」における農産物の冬場の供給不足を解消し、年間を通した観光客の拡大を目指すこととした。

○ 2018年4 月に地域材（15m3）を活用した約50 坪の木造の農業ハウスを整備するとともに、菌床きのこ栽培については、東京農業大学林産化学研究室により試験を進めている。

道の駅「川場田園プラザ」

地域材を利用した木造農業ハウス

構想イメージ

※ 出典：林野庁作成「林業成長産業化地域事例集2018」

（5） 林工連携（山形県）

○ 「林工連携」は、林業、木材産業、工業及び建築関係事業者や関係分野の大学・研究機関等が相互に連携しながら、森林資源を起点とした新たな技術や製品の開発を目指すもの。

【林工連携の例】

木質チップ圧縮脱水装置

ペレットストーブ

木製ブロック

○ 林工連携を推進することにより、新たな木材の需要を喚起し、雇用の創出を図るため、平成29年９月15日に「山形県林工連携コンソーシアム」を設立。

【活動内容】

- 林工連携に関する情報（先行事例や木材調達など）の提供
- 会員を対象とした研修会・研究会・交流会等の開催など

※ 出典：山形県ＨＰ

３　木の文化の継承および更なる発展

（１）「木の文化都市・金沢の継承と創出に向けて（石川県金沢市）

○　木の文化都市を実現するため、木を外装等に利用する建物に対する支援（金沢市木の文化都市創出モデル事業補助金・金沢市都心軸沿線木の文化都市見える化事業補助金）を実施している。

○　金沢で建築を学ぶ学生たちにとって、将来の「金沢のまちづくり」を創出するとともに、今後のまちづくり行政に新しい発想の蓄積をもたらすため、令和３年度から『「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業」に取り組んでいる。

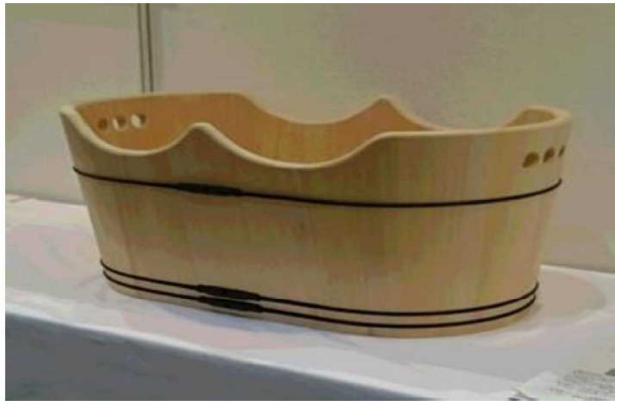
○　木の文化都市を継承・創出の推進に関して検討するため、有識者らによる「木の文化都市を継承・創出する金沢会議」を設置し、検討を進めている。

金沢駅東口広場

※　出典：金沢市ＨＰ

（2） 県産材を活用した商品について

木製の産湯桶（長野県南木曽町）



木棺（長野県伊那市）

木製眼鏡（愛媛県）

杉結箸、祝い箸（愛媛県）

※　出典
産湯桶：長野県作成「どんどん使おう！　信州の木」
木棺：伊那市ＨＰ
木製眼鏡・箸：愛媛県作成「地域材を活用した新商品事例集」

（3） 木ごころ塾（群馬県）

○　世田谷区（東京都）と川場村（群馬県）が「区民健康村相互協力に関する協定（縁組協定）」を締結。区民と村民の心と心の交流を目的として、様々な交流事業を実施。その交流の場の一つとして、木ごころ塾を開講。

○　木の種類や部位による使い方などを地元の木工職人から学ぶことができ、その知識や技術は家庭での創作機会へと広がり、木材利用促進に繋がる。

○　過去10年間（平成20年度～29年度）の年間延べ参加者数は447名。

※　出典：林野庁「木育をはじめとする木材利用の普及啓発に関する事例集」、世田谷区民健康村ＨＰ